



CHAPTER

6

## Cisco Nexus 5000 シリーズ システム管理コマンド

---

この章では、Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチで使用できるシステム管理コマンドについて説明します。

# clear logging nvram

NVRAM ログを消去するには、**clear logging nvram** コマンドを使用します。

**clear logging nvram**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**コマンドのデフォルト設定** なし

**コマンドモード** すべて可能

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** なし

**例** 次に、NVRAM ログをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging nvram
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging nvram	NVRAM ログを表示します。

# clear logging onboard

永続ログの OBFL エントリを消去するには、**clear logging onboard** コマンドを使用します。

**clear logging onboard [environmental-history] [exception-log] [obfl-log] [stack-trace]**

シンタックスの説明	
<b>environmental-history</b>	(任意) OBFL 環境履歴を消去します。
<b>exception-log</b>	(任意) OBFL 例外ログ エントリを消去します。
<b>obfl-log</b>	(任意) OBFL (boot-up/uptime/device-version/obfl-history) を消去します。
<b>stack-trace</b>	(任意) OBFL スタック トレース エントリを消去します。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンド モード すべて可能

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、OBFL 環境履歴エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard environmental-history
switch#
```

次に、OBFL 例外ログ エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard exception-log
switch#
```

次に、OBFL (boot-up/uptime/device-version/obfl-history) エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard obfl-log
switch#
```

次に、OBFL スタック トレース エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard stack-trace
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show logging onboard</b>	オンボード失敗ログを表示します。

# clear logging session

現在のロギングセッションを消去するには、**clear logging session** コマンドを使用します。

**clear logging session**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**コマンドのデフォルト設定** なし

**コマンドモード** すべて可能

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** なし

**例** 次に、現在のロギングセッションを消去する例を示します。

```
switch# clear logging session
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging session	ロギングセッションステータスを表示します。

# logging console

コンソールセッションでロギングメッセージをイネーブルにするには、**logging console** コマンドを使用します。

コンソールセッションのロギングメッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging console** [*severity-level*]

**no logging console**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度のレベルです。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されます。重大度レベルは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 — 緊急：システムが使用できない</li> <li>• 1 — アラート：迅速な対処が必要</li> <li>• 2 — クリティカル：クリティカルな状態 — デフォルト レベル</li> <li>• 3 — エラー：エラーの状態</li> <li>• 4 — 警告：警告の状態</li> <li>• 5 — 通知：通常であるが重大な状態</li> <li>• 6 — 情報：情報メッセージのみ</li> <li>• 7 — デバッグ：デバッグ中にもみ表示</li> </ul>
<b>コマンドのデフォルト設定</b>	なし	
<b>コマンド モード</b>	グローバル コンフィギュレーション	
<b>コマンド履歴</b>	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。
<b>使用上のガイドライン</b>	なし	
<b>例</b>	次に、コンソールセッションで重大度レベル 4（警告）以上を使用してロギングメッセージをイネーブルにする例を示します。 <pre>switch# configure terminal switch(config)# logging console 4 switch(config)#</pre>	
<b>関連コマンド</b>	コマンド	説明
	show logging console	コンソール ロギング コンフィギュレーションを表示します。

# logging level

指定された重大度レベルまたはそれ以上の定義済みファシリティからのロギングメッセージをイネーブルにするには、**logging level** コマンドを使用します。

定義済みファシリティからのロギングメッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging level** *facility severity-level*

**no logging level** *facility severity-level*

## シンタックスの説明

<i>facility</i>	適切なファシリティを定義します。ファシリティは「システム メッセージ ロギング ファシリティ」(p.6-30) に一覧されています。  同じ重大度レベルをすべてのファシリティに適用するには、 <b>all</b> ファシリティを使用します。
<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度のレベルです。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されます。重大度レベルは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 — 緊急：システムが使用できない</li> <li>• 1 — アラート：迅速な対処が必要</li> <li>• 2 — クリティカル：クリティカルな状態 — デフォルト レベル</li> <li>• 3 — エラー：エラーの状態</li> <li>• 4 — 警告：警告の状態</li> <li>• 5 — 通知：通常であるが重大な状態</li> <li>• 6 — 情報：情報メッセージのみ</li> <li>• 7 — デバッグ：デバッグ中にのみ表示</li> </ul>

## コマンドのデフォルト設定

なし

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

なし

## 例

次に、重大度レベル 2 以上の AAA ファシリティからロギングメッセージをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging level aaa 2
switch(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show logging level</b>	ファシリティ ロギング レベル コンフィギュレーションを表示します。

# logging logfile

システム メッセージの保存に使用するログ ファイル名とログの最小重大度レベルを設定するには、**logging logfile** コマンドを使用します。

ログ ファイルへのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging logfile logfile-name severity-level [size bytes]**

**no logging logfile [logfile-name severity-level [size bytes]]**

シンタックスの説明	
<i>logfile-name</i>	システム メッセージの保存に使用するログ ファイル名を設定します。
<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度のレベルです。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されます。重大度レベルは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 — 緊急：システムが使用できない</li> <li>• 1 — アラート：迅速な対処が必要</li> <li>• 2 — クリティカル：クリティカルな状態 — デフォルト レベル</li> <li>• 3 — エラー：エラーの状態</li> <li>• 4 — 警告：警告の状態</li> <li>• 5 — 通知：通常であるが重大な状態</li> <li>• 6 — 情報：情報メッセージのみ</li> <li>• 7 — デバッグ：デバッグ中にのみ表示</li> </ul>
<i>size bytes</i>	(任意) ファイルの最大サイズを指定します。デフォルトのサイズは 4194304 バイトで、4096 バイトから 4194304 バイトの間で設定できます。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、*logfile* と呼ばれるログ ファイルを設定してシステム メッセージを保存し、その重大度レベルを 4 に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging logfile logfile 4
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show logging logfile</b>	ログ ファイルを表示します。

# logging module

モジュール ログ メッセージをイネーブルにするには、**logging module** コマンドを使用します。指定した重大度レベルを設定するか、デフォルトのレベルを使用します。

モジュール ログ メッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging module [severity-level]
```

```
no logging module
```

<b>シンタックスの説明</b>	<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度のレベルです。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されます。重大度レベルは次のとおりです。:
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 — 緊急: システムが使用できない</li> <li>• 1 — アラート: 迅速な対処が必要</li> <li>• 2 — クリティカル: クリティカルな状態</li> <li>• 3 — エラー: エラーの状態</li> <li>• 4 — 警告: 警告の状態</li> <li>• 5 — 通知: 通常であるが重大な状態 — デフォルト レベル</li> <li>• 6 — 情報: 情報メッセージのみ</li> <li>• 7 — デバッグ: デバッグ中にのみ表示</li> </ul>
<b>コマンドのデフォルト設定</b>	なし	
<b>コマンドモード</b>	グローバル コンフィギュレーション	
<b>コマンド履歴</b>	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。
<b>使用上のガイドライン</b>	なし	
<b>例</b>	次に、モジュール ログ メッセージをイネーブルにする例を示します。	
	<pre>switch# configure terminal switch(config)# logging module switch(config)#</pre>	
<b>関連コマンド</b>	コマンド	説明
	show logging module	モジュール ロギング ステータスを表示します。



# logging monitor

デバイスでモニタ（端末回線）のメッセージのログをイネーブルにするには、**logging monitor** コマンドを使用します。この設定は、Telnet セッションと SSH セッションに適用されます。

モニタ ログ メッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging monitor** [*severity-level*]

**no logging monitor**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度のレベルです。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されます。重大度レベルは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 — 緊急：システムが使用できない</li> <li>• 1 — アラート：迅速な対処が必要</li> <li>• 2 — クリティカル：クリティカルな状態 — デフォルト レベル</li> <li>• 3 — エラー：エラーの状態</li> <li>• 4 — 警告：警告の状態</li> <li>• 5 — 通知：通常であるが重大な状態</li> <li>• 6 — 情報：情報メッセージのみ</li> <li>• 7 — デバッグ：デバッグ中の中のみ表示</li> </ul>
<b>コマンドのデフォルト設定</b>	なし	
<b>コマンドモード</b>	グローバル コンフィギュレーション	
<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。
<b>使用上のガイドライン</b>	なし	
<b>例</b>	次に、モニタ ログ メッセージをイネーブルにする例を示します。 <pre>switch# configure terminal switch(config)# logging monitor switch(config)#</pre>	
<b>関連コマンド</b>	<b>コマンド</b>	<b>説明</b>
	<b>show logging monitor</b>	モニタ ログのステータスを表示します。

# logging server

指定したホスト名または IPv4/IPv6 アドレスのリモート Syslog サーバを設定するには、**logging server** コマンドを使用します。

リモート Syslog サーバをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging server host [severity-level] [facility {auth | authpriv | cron | daemon | ftp | kernel | local0 |
local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 | lpr | mail | news | syslog | user | uucp} ]
no logging server host
```

## シンタックスの説明

<i>host</i>	リモート Syslog サーバのホスト名または IPv4/IPv6 アドレスを設定します。
<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度のレベルです。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されます。重大度レベルは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 — 緊急：システムが使用できない</li> <li>• 1 — アラート：迅速な対処が必要</li> <li>• 2 — クリティカル：クリティカルな状態 — デフォルト レベル</li> <li>• 3 — エラー：エラーの状態</li> <li>• 4 — 警告：警告の状態</li> <li>• 5 — 通知：通常であるが重大な状態</li> <li>• 6 — 情報：情報メッセージのみ</li> <li>• 7 — デバッグ：デバッグ中にのみ表示</li> </ul>
<i>facility facility</i>	(任意) 適切な発信ファシリティを定義します。ファシリティは「 <a href="#">システムメッセージロギングファシリティ</a> 」セクションに一覧されています。デフォルトの発信ファシリティは <b>local7</b> です。

## コマンドのデフォルト設定

デフォルトの発信ファシリティは **local7** です。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

なし

## 例

次に、デフォルトの発信ファシリティを使用して、指定した IPv4 アドレスのリモート Syslog サーバを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server 172.28.254.253
switch(config)#
```

次に、重大度レベル 5 以上の指定したホスト名のリモート Syslog サーバを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server syslogA 5
switch(config)#
```

---

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show logging server</b>	設定された Syslog サーバを表示します。

# logging timestamp

ロギング タイムスタンプの単位を設定するには、**logging timestamp** コマンドを使用します。デフォルトでは秒単位となります。

ロギング タイムスタンプの単位をデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}
```

```
no logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}
```

シンタックスの説明	<b>microseconds   milliseconds   seconds</b>	ロギング タイムスタンプに使用する単位を選択します。デフォルトの単位は <b>seconds</b> です。
-----------	--	--

コマンドのデフォルト設定	なし
--------------	----

コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション
---------	-------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	なし
------------	----

例	次に、ロギング タイムスタンプの単位をミリ秒に設定する例を示します。
---	------------------------------------

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging timestamp microseconds
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show logging timestamp</b>	ロギング タイムスタンプ コンフィギュレーションを表示します。

# show logging console

コンソール ログイング コンフィギュレーションを表示するには、**show logging console** コマンドを使用します。

**show logging console**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**コマンドのデフォルト設定** なし

**コマンドモード** すべて可能

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** なし

**例** 次に、コンソール ログイング コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show logging console
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	logging console	コンソールにログイングを設定します。

# show logging info

ロギング コンフィギュレーションを表示するには、**show logging info** コマンドを使用します。

**show logging info**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**コマンドのデフォルト設定** なし

**コマンドモード** すべて可能

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** なし

**例** 次に、ロギング コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show logging info
switch#
```

# show logging last

ログ ファイルの末尾から指定数の行を表示するには、**show logging last** コマンドを使用します。

**show logging last** *number*

シンタックスの説明	<i>number</i>	表示する行数を 1 から 9999 の範囲で入力します。
-----------	---------------	------------------------------

コマンドのデフォルト設定	なし
--------------	----

コマンドモード	すべて可能
---------	-------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	なし
------------	----

例	次に、ログ ファイルの最後の 42 行を表示する例を示します。
---	---------------------------------

```
switch# show logging last 42
switch#
```

## show logging level

ファシリティ ログイング重大度レベル コンフィギュレーションを表示するには、**show logging level** コマンドを使用します。

```
show logging level [facility]
```

<b>シンタックスの説明</b>	<i>facility</i>	(任意) 適切なログイング ファシリティを定義します。ファシリティは「システムメッセージ ログイング ファシリティ」セクションに一覧されています。
<b>コマンドのデフォルト設定</b>	なし	
<b>コマンドモード</b>	グローバル	コンフィギュレーション
<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。
<b>使用上のガイドライン</b>	なし	
<b>例</b>	次に、ポートチャンネル ログイング重大度レベル コンフィギュレーションを表示する例を示します。	
	<pre>switch# show logging level port-channel switch#</pre>	
<b>関連コマンド</b>	<b>コマンド</b>	<b>説明</b>
	logging level	ファシリティ ログイング レベルを設定します。



# show logging logfile

入力した範囲内でタイムスタンプが設定されているログ ファイルのメッセージを表示するには、**show logging logfile** コマンドを使用します。終了時刻を入力していない場合は、現在の時刻が使用されます。

```
show logging logfile [start-time yyyy mmm dd hh:mm:ss] [end-time yyyy mmm dd hh:mm:ss]
```

シンタックスの説明	<p><b>start-time</b> (任意) 開始時刻を <code>yyyy mmm dd hh:mm:ss</code> の形式で入力します。月 (<i>mmm</i>) フィールドに 3 文字を、年 (<i>yyyy</i>)、日 (<i>dd</i>) フィールドに数字を、および時刻 (<i>hh:mm:ss</i>) フィールドにコロンで区切られた数字を使用します。</p> <p><b>end-time</b> (任意) 終了時刻を <code>yyyy mmm dd hh:mm:ss</code> の形式で入力します。月 (<i>mmm</i>) フィールドに 3 文字を、年 (<i>yyyy</i>)、日 (<i>dd</i>) フィールドに数字を、および時刻 (<i>hh:mm:ss</i>) フィールドにコロンで区切られた数字を使用します。</p>				
コマンドのデフォルト設定	なし				
コマンドモード	すべて可能				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="368 994 507 1021">リリース</th> <th data-bbox="596 994 699 1021">変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="368 1028 507 1055">4.0(0)N1(1a)</td> <td data-bbox="596 1028 963 1055">このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。				
使用上のガイドライン	なし				
例	<p>次に、示されている範囲内でタイムスタンプが設定されているログ ファイルのメッセージを表示する例を示します。</p> <pre>switch# show logging logfile start-time 2008 mar 11 12:10:00 switch#</pre>				
関連コマンド	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="368 1435 470 1462">コマンド</th> <th data-bbox="671 1435 726 1462">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="368 1469 523 1496">logging logfile</td> <td data-bbox="671 1469 1123 1496">ログ ファイルのロギングを設定します。</td> </tr> </tbody> </table>	コマンド	説明	logging logfile	ログ ファイルのロギングを設定します。
コマンド	説明				
logging logfile	ログ ファイルのロギングを設定します。				

# show logging module

モジュール ロギング コンフィギュレーションを表示するには、**show logging module** コマンドを使用します。

**show logging module**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**コマンドのデフォルト設定** なし

**コマンド モード** すべて可能

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** なし

**例** 次に、モジュールロギング コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show logging module
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	logging module	モジュール ロギングを設定します。

# show logging monitor

モニタ ロギング コンフィギュレーションを表示するには、**show logging monitor** コマンドを使用します。

**show logging monitor**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**コマンドのデフォルト設定** なし

**コマンドモード** すべて可能

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** なし

**例** 次に、モニタ ロギング コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show logging monitor
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	logging monitor	モニタにロギングを設定します。

# show logging nvram

NVRAM ログのメッセージを表示するには、**show logging nvram** コマンドを使用します。

**show logging nvram** [*last number-lines*]

<b>シンタックスの説明</b>	<b>last number-lines</b> (任意) 表示する行数を入力します。指定した行数が表示されます。1 から 100 の範囲で指定します。
------------------	--

<b>コマンドのデフォルト設定</b>	なし
---------------------	----

<b>コマンドモード</b>	グローバル コンフィギュレーション
----------------	-------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

<b>使用上のガイドライン</b>	なし
-------------------	----

<b>例</b>	次に、NVRAM ログの最後の 20 行を表示する例を示します。
----------	----------------------------------

```
switch# show logging nvram last 20
switch#
```

# show logging onboard

エラーのタイプに基づいてオンボード ロギング情報を表示するには、**show logging onboard** コマンドを使用します。

```
show logging onboard {boot-uptime | device-version | endtime | environmental-history |
exception-log | kernel-trace | obfl-history | obfl-logs | stack-trace | starttime | status} [> file |
type]
```

## シンタックスの説明

<b>boot-uptime</b>	OBFL ブートと動作時間情報を表示します。
<b>device-version</b>	OBFL デバイスのバージョン情報を表示します。
<b>endtime</b>	次の形式で指定された終了時刻までの OBFL ログを表示します。 <i>mm/dd/yy-HH:MM:SS</i>
<b>environmental-history</b>	OBFL 環境履歴を表示します。
<b>exception-log</b>	OBFL 例外ログを表示します。
<b>kernel-trace</b>	OBFL カーネル トレース情報を表示します。
<b>obfl-history</b>	OBFL 履歴情報を表示します。
<b>obfl-logs</b>	OBFL テクニカル サポート ログ情報を表示します。
<b>stack-trace</b>	OBFL カーネル スタック トレース情報を表示します。
<b>starttime</b>	次の形式で指定された開始時刻からの OBFL ログを表示します。 <i>mm/dd/yy-HH:MM:SS</i>
<b>status</b>	OBFL ステータスがイネーブルであるかディセーブルであるかを表示します。
<b>&gt; file</b>	(任意) 出力をファイルにリダイレクトします。詳しくは、「使用方法ガイドライン」セクションを参照してください。
<b>  type</b>	(任意) 出力にフィルタを適用します。詳しくは、「使用方法ガイドライン」セクションを参照してください。

## コマンドのデフォルト設定

なし

## コマンド モード

すべて可能

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

**starttime** キーワードと **endtime** キーワードの日付および時刻引数は、月 / 日 / 年 (*mm/dd/yy*) として入力され、時刻がハイフンの後に 24 時間形式で時間 : 分 : 秒 (*HH:MM:SS*) で続きます。たとえば、次のように入力します。

- **starttime** 03/17/08-15:01:57
- **endtime** 03/18/08-15:04:57

*file* で有効な値は次のとおりです。

- **bootflash:**
- **ftp:**
- **scp:**
- **sftp:**

- **tftp:**
- **volatile:**

*type* で有効な値は次のとおりです。

- **begin [-i] [-x] [word]** — テキストに一致する行で始まります。
  - **-i** — 文字列を比較するときに、大文字小文字の違いを無視します。
  - **-x** — 行全体が一致する行のみを出力します。
  - *word* — 表現を指定します。
- **count [>file || type]** — 一致する行をカウントします。
- **egrep | grep print-match** — Egrep または Grep です。Egrep は、grep よりも高度な正規表現構文を使用して、一致するテキストの行を検索します。grep は 1 つまたは複数の正規表現に一致するテキストの行を検索し、一致する行のみを出力します。
  - **-A num** — すべての一致行の後に、指定した行数のコンテキストを出力します。範囲：1 ~ 999
  - **-B num** — すべての一致行の前に、指定した行数のコンテキストを出力します。範囲：1 ~ 999
  - **-c** — 一致行の数のみを出力します。
  - **-i** — 文字列を比較するときに、大文字小文字の違いを無視します。
  - **-n** — 各行番号の後にそれぞれの一致内容を出力します。
  - **-v** — *word* 引数に一致するものがない行のみを出力します。
  - **-x** — 語が完全に一致する行のみを出力します。
  - **-x** — 行全体が一致する行のみを出力します。
  - *word* — 表現を指定します。
- **exclude [-i] [-x] [word]** — テキストに一致する行を除外します。
  - **-i** — 文字列を比較するときに、大文字小文字の違いを無視します。
  - **-x** — 行全体が一致する行のみを出力します。
  - *word* — 表現を指定します。
- **head [-n num]** — ストリーム エディタです。オプションの **-n num** キーワードと引数を使用すると、出力する行数を指定できます。範囲は 0 ~ 2147483647 です。
- **include [-i] [-x] [word]** — テキストに一致する行を含めます。
  - **-i** — 文字列を比較するときに、大文字小文字の違いを無視します。
  - **-x** — 行全体が一致する行のみを出力します。
  - *word* — 表現を指定します。
- **last [num]** — 出力する最後の行を表示します。オプションの *num* で、出力する行数を指定します。範囲は 0 ~ 9999 です。
- **less [-E | -d]** — ファイルの最後で終了します。
  - **-E** — (任意) ファイルの最後で終了します。
  - **-d** — (任意) ダム ターミナルを指定します。
- **no-more** — コマンド出力の割付をオフにします。
- **sed command** — ストリーム エディタ
- **wc** — 語、行、文字数をカウントします。
  - **-c** — (任意) 出力する文字数を指定します。
  - **-c** — (任意) 出力する行数を指定します。
  - **-c** — (任意) 出力する語数を指定します。
  - **>** — (任意) ファイルにリダイレクトします。

— |— フィルタにコマンド出力をパイプします。

このコマンドを使用して、システム ハードウェアから OBFL データを表示します。OBFL 機能はデフォルトでイネーブルになっており、シスコ ルータまたはスイッチにインストールされているハードウェア カードまたはモジュールの問題の診断に役立つ動作温度、ハードウェア動作時間、中断、その他の重要なイベントとメッセージを記録します。データのログは、不揮発性メモリに保存されるファイルに作成されます。オンボードハードウェアが起動すると、監視されている各領域で最初のレコードが作成され、後続のレコードの基準値となります。

OBFL 機能は、継続的なレコードの収集と古い（履歴）レコードのアーカイブで循環更新スキームを提供し、システムに関する正確なデータを保証します。データは、測定と継続ファイルのサンプルのスナップショットを表示する継続情報の形式、または収集したデータに関する詳細を提供する要約情報の形式で記録されます。履歴データが利用できない場合は、「No historical data to display」というメッセージが表示されます。

## 例

次に、OBFL ブートと動作時間情報を表示する例を示します。

```
switch# show logging onboard boot-uptime
Sat May  3 10:45:49 2008:  Boot Record
-----
Boot Time.....: Sat May  3 10:45:49 2008
Slot Number.....: 1
Serial Number.....: FLC12080040
Bios Version.....: v1.0.0(04/01/08)
Firmware Version...: 4.0(0)N1(1) [build 4.0(0)N1(1)]
```

表 6-1 に、この出力で表示される重要なフィールドについて説明します。

**表 6-1 show logging onboard boot-uptime コマンドの出力**

フィールド	説明
Boot Time	ブートが発生した時刻
Slot Number	スロット番号
Serial Number	モジュールのシリアル番号
Bios Version	プライマリ Binary Input and Output System (BIOS) のバージョン
Firmware Version	ファームウェアのバージョン

次に、OBFL ロギング デバイス情報を表示する例を示します。

```
switch# show logging onboard device-version
-----
OBFL Data for
  Module: 1
-----
Device Version Record
-----
Timestamp                Device Name      Instance Hardware Software
                          Num      Version  Version
-----
Sat May 3 10:45:52 2008  ALTOS           0           2           0
Sat May 3 10:45:52 2008  GATOS           0           1           0
Sat May 3 10:45:52 2008  GATOS           1           1           0
Sat May 3 10:45:52 2008  GATOS           2           1           0
Sat May 3 10:45:52 2008  GATOS           3           1           0
Sat May 3 10:45:52 2008  GATOS           4           1           0
Sat May 3 10:45:52 2008  GATOS           5           1           0
Sat May 3 10:45:52 2008  GATOS           6           1           0
Sat May 3 10:45:52 2008  GATOS           7           1           0
Sat May 3 10:45:52 2008  GATOS           8           1           0
Sat May 3 10:45:52 2008  GATOS           9           1           0
Sat May 3 10:45:52 2008  GATOS          10           1           0
Sat May 3 10:45:52 2008  GATOS          11           1           0
Sat May 3 10:45:52 2008  GATOS          12           1           0
Sat May 3 10:45:52 2008  GATOS          13           1           0
```

表 6-2 に、この出力で表示される重要なフィールドについて説明します。

表 6-2 show logging onboard device-version コマンドの出力

フィールド	説明
Timestamp	日、日付、時刻
Device Name	デバイス名
Instance Num	インスタンス数
Hardware Version	ハードウェア デバイスのバージョン
Software Version	ソフトウェア デバイスのバージョン

次に、OBFL 履歴情報を表示する例を示します。

```
switch# show logging onboard obfl-history
-----
OBFL Data for
  Module: 1
-----
OBFL history records:
-----
Mon May 12 03:45:57 2008      : OBFL all logs cleared
Mon May 12 03:56:09 2008      : OBFL environmental-history logging enabled
Mon May 12 03:56:37 2008      : OBFL obfl-log logging to disabled
Mon May 12 03:57:12 2008      : OBFL obfl-log logging enabled
```

show logging onboard obfl-history コマンドは、次の情報を表示します。

- OBFL が手動でディセーブルにされたときのタイムスタンプ
- OBFL が手動でイネーブルにされたときのタイムスタンプ
- OBFL データが手動で消去にされたときのタイムスタンプ



次に、OBFL カーネル スタック トレース情報を表示する例を示します。

```
switch# show logging onboard module 2 stack-trace
===== STACK TRACE =====
Logging time: Sat Feb 29 19:47:38 2008
watchdog timeout: process swapper (0), jiffies 0x169bb
Stack: c0006e98 c001721c d195f5b4 c0005424 c0005500 c0003e90 c0005a2c c0005a40
c0001a88 c01bf610 c0000394
Call Trace:
print_stack2_buf + 0x50
kernel_thread + 0xb94
klm_cctrl + 0x4554
ppc_irq_dispatch_handler + 0x190
do_IRQ + 0x3c
ret_from_intercept + 0x0
probe_irq_mask + 0x494
probe_irq_mask + 0x4a8
transfer_to_handler + 0x15c
softnet_data + 0x2b0
Registers:
NIP: C0005A20 XER: 00000000 LR: C0005A2C SP: C01AA120 REGS: c01aa070 TRAP: 0500
Tainted: PF
MSR: 00009000 EE: 1 PR: 0 FP: 0 ME: 1 IR/DR: 00
DEAR: C0029B40, ESR: C01F0000
MCSRR0: 00000000, MCSRR1: 00000000, MCAR: 00000000
MCSR: 00000000 MCAR: 00000000 MCPSUMR: 00000000
TASK = c01a8190[0] 'swapper' Last syscall: 120
last math 00000000 last altivec 00000000 last spe 00000000
GPR00: 00000000 C01AA120 C01A8190 00000000 00000032 C8F1DE28 D1010A9F 00000000
GPR08: 0000180F C01FA39C D1010AA3 C01B8D18 24044244 1003A44C 0FFF6700 10049000
GPR16: 0FFAE1B0 0FFAC90 00000000 00000000 00000000 00000000 00000000 00000001
GPR24: 00000000 00000000 00001160 007FFEAB 007FFE00 C01F0000 C01F0000 00000000
```

**show logging onboard stack-trace** コマンドは、次の情報を表示します。

- 秒単位の時間
- ミリ秒単位の時間
- エラーを説明する文字列
- 現在のプロセス名と ID
- カーネル ジフィー
- スタック トレース

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear logging onboard</b>	永続ログの OBFL エントリを消去します。
<b>hw-module logging onboard</b>	エラーのタイプに基づいて OBFL エントリをイネーブまたはディセーブルにします。

# show logging server

Syslog サーバ コンフィギュレーションを表示するには、**show logging server** コマンドを使用します。

```
show logging server
```

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**コマンドのデフォルト設定** なし

**コマンドモード** すべて可能

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** なし

**例** 次に、Syslog サーバ コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show logging server
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	logging server	リモート Syslog サーバを設定します。

# show logging session status

ロギングセッションステータスを表示するには、**show logging session status** コマンドを使用します。

**show logging session status**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**コマンドのデフォルト設定** なし

**コマンドモード** すべて可能

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** なし

**例** 次に、ロギングセッションステータスを表示する例を示します。

```
switch# show logging session status
switch#
```

# show logging status

ロギング ステータスを表示するには、**show logging status** コマンドを使用します。

**show logging status**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**コマンドのデフォルト設定** なし

**コマンドモード** すべて可能

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** なし

**例** 次に、ロギング ステータスを表示する例を示します。

```
switch# show logging status
switch#
```

# show logging timestamp

ロギング タイムスタンプ コンフィギュレーションを表示するには、**show logging timestamp** コマンドを使用します。

```
show logging timestamp
```

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**コマンドのデフォルト設定** なし

**コマンドモード** すべて可能

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** なし

**例** 次に、ロギング タイムスタンプ コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show logging timestamp
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	logging timestamp	ロギング タイムスタンプの詳細を設定します。

## システム メッセージ ロギング ファシリティ

表 6-3 に、システム メッセージ ロギング コンフィギュレーションで使用できるファシリティを一覧します。

表 6-3 システム メッセージ ロギング ファシリティ

ファシリティ	説明
aaa	aaa Syslog メッセージのレベルを設定します。
aclmgr	aclmgr Syslog メッセージのレベルを設定します。
adjmgr	隣接関係マネージャの Syslog フィルタ レベルを設定します。
afm	afm Syslog メッセージのレベルを設定します。
all	すべてのファシリティのレベルを設定します。
altos	Syslog レベルを割り当てます。
arp	ARP の Syslog フィルタ レベルを設定します。
auth	認証システムのレベルを設定します。
authpriv	認証 (プライベート) システムのレベルを設定します。
bootvar	bootvar のレベルを設定します。
callhome	Callhome Syslog レベルです。
capability	mig utils デーモンの Syslog レベルを設定します。
cdp	CDP のロギング のレベルを設定します。
cert-enroll	Cert-enroll Syslog レベルです。
cfs	CFS のロギング のレベルを設定します。
clis	CLIS の Syslog フィルタ レベルを設定します。
core	コア デーモン Syslog レベルです。
cron	Cron/ ファシリティのレベルを設定します。
daemon	システム デーモンのレベルを設定します。
dcbx	dcx Syslog メッセージのレベルを設定します。
device-alias	デバイス エイリアス分配サービスの Syslog レベルを設定します。
dstats	delta 統計情報 Syslog レベルです。
epp	EPP Syslog メッセージのレベルを設定します。
ethpc	ethpc Syslog メッセージのレベルを設定します。
ethpm	ethpm Syslog メッセージのレベルを設定します。
evmc	evmc Syslog メッセージのレベルを設定します。
fabric_start_cfg_mgr	fabric start cfg mgr Syslog レベルです。
fc2d	fc2d Syslog メッセージのレベルを設定します。
fcdomain	fcdomain Syslog メッセージのレベルを設定します。
fcns	ネーム サーバの Syslog フィルタ レベルを設定します。
fcpc	fcpc Syslog メッセージのレベルを設定します。
fcsc	FCS の Syslog フィルタ レベルを設定します。
fdmi	fdmi のロギング のレベルを設定します。
feature-mgr	機能マネージャの Syslog レベルです。
flogi	flogi Syslog メッセージのレベルを設定します。
fs-daemon	fs デーモン Syslog レベルです。
fspf	FSPF Syslog レベルです。

表 6-3 システムメッセージロギングファシリティ (続き)

ファシリティ	説明
ftp	ファイル転送システムのレベルを設定します。
fwm	fwm Syslog メッセージのレベルを設定します。
gatos	Gatos Syslog レベルです。
im	im Syslog メッセージのレベルを設定します。
kernel	カーネルのレベルを設定します。
l3vm	L3VM の Syslog フィルタ レベルを設定します。
license	ライセンス システム Syslog レベルです。
local0	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local1	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local2	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local3	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local4	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local5	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local6	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local7	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
lpr	ラインプリンタ システムのレベルを設定します。
mail	メール システムのレベルを設定します。
monitor	イーサネット スパン Syslog メッセージのレベルを設定します。
news	USENET ニュースのレベルを設定します。
nohms	nohms Syslog メッセージのレベルを設定します。
nqosm	nqosm Syslog メッセージのレベルを設定します。
ntp	NTP の Syslog フィルタ レベルを設定します。
pfm	pfm Syslog メッセージのレベルを設定します。
pktmgr	パケット マネージャの Syslog フィルタ レベルを設定します。
plugin	plugin Syslog メッセージのレベルを設定します。
port	ポート Syslog メッセージのレベルを設定します。
port-channel	ポート チャンネル Syslog メッセージのレベルを設定します。
qd	qd Syslog メッセージのレベルを設定します。
radius	RADIUS Syslog レベルです。
rdl	RDL のロギング のレベルを設定します。
res_mgr	res_mgr Syslog メッセージのレベルを設定します。
rib	rib のレベルを設定します。
rlir	RLIR のレベルを設定します。
rscn	RSCN のレベルを設定します。
san-port-channel	san-port-channel Syslog メッセージのレベルを設定します。
scsi-target	SCSI ターゲット デーモン Syslog レベルです。
security	セキュリティ Syslog レベルです。
session	セッション マネージャ Syslog メッセージのレベルを設定します。
sifmgr	sifmgr Syslog メッセージのレベルを設定します。
spanning-tree	stp Syslog メッセージのレベルを設定します。
stp	stp Syslog メッセージのレベルを設定します。

表 6-3 システムメッセージ ログイング ファシリティ (続き)

ファシリティ	説明
syslog	内部 Syslog メッセージのレベルを設定します。
sysmgr	システム マネージャの Syslog レベルです。
tcpudp	TCPUDP の Syslog フィルタ レベルを設定します。
track	トラック Syslog メッセージのレベルを設定します。
urib	URIB の Syslog フィルタ レベルを設定します。
user	ユーザ プロセスのレベルを設定します。
uucp	Unix-to-Unix コピー システムのレベルを設定します。
vlan_mgr	VLAN Syslog メッセージのレベルを設定します。
vmm	vmm Syslog メッセージのレベルを設定します。
vsan	VSAN Syslog レベルです。
vshd	vshd のログイング レベルを設定します。
wwnm	WWN マネージャの Syslog レベルを設定します。
xml	XML エージェント Syslog レベルです。
zone	ゾーン サーバの Syslog フィルタ レベルを設定します。
zschk	zschk Syslog メッセージのレベルを設定します。